

菅又厚美作 「いじめ 前編 このタコ！」

- 杉山先生 それじゃ今日は、作文を書いてもらおうかな。
(効果音) (クラスのざわめき)
- 男子 えー！ そういうのあり?! 小学生じゃねえんだよ。
- 杉山先生 高校生だって大学生だって作文書くわよ。イヤならいいわよ。詩でも絵でも書きなさい。
- 男子 ジョーダンじゃねえよ。
- 杉山先生 ジョーダンじゃないわよ。だって本当の授業だもの。ジョーダンでやってどうするのよ。
- 大場直美 先生、どんなこと書くんですか？
- 杉山先生 ン。初めは自由にしようかと思ったけど、やっぱりこっちで考えさせてもらったわ。「一番信頼できる人」ってタイトルでね。
- 直美 千鶴子！ 「一番信頼できる人」だって！
- 内田千鶴子 うん。もう断然、木村先生のこと書きちゃう。
- 杉山先生 何ゴチャゴチャ言ってるの！ 今渡した紙に書いてね。終わった人から出して、自由にしていいわよ。はい、始めて。
- ナレーション 内田千鶴子と親友の大場直美は、青春中学 2 年生。千鶴子は、体育の木村先生のことが好きでした。この木村先生は、女子はもちろんのこと、男子にも人気もあるクリスチャンの熱血教師でした。それで、同じクラスの山本恵子も、熱烈な木村先生のファンで、ファンクラブまで作っているほどでした。ところが、この恵子は、裏ではクラスのツッパリグループのリーダー格で、ファンクラブ以外の生徒が木村先生を好きになると、ひどくいじめるというもっぱらのうわさでした。
- 千鶴子 「あたしは、木村先生が大好きです。どうして女子の体育を受け持ってくれなのでしょう。」……ねえ直美、この次、なんて書こうかな。やっぱり、「カッコいい」とか、「渋い」とか、「好きです。愛してます」と書こうか。
- 直美 あんたねえ、ラブレターじゃないんだよ・信頼してる人のことを客観的に書くんだよ。
- 千鶴子 うん。だから最後に、「あたしは木村先生を信頼し、愛してます」って書くつもりよ。問題はその前よ。直美はどうやって書いているの？
- 直美 え、わたしは、いいわよ別に。(原稿用紙を千鶴子にさっと取られる。)あ！ ちょっと、やだ、見ないで！
- 千鶴子 (直美の作文を読む)「好き、好き、好き。信頼できるよき人は、あたしの先生。英語の新任黒沢先生。」なあに、これ？ あんた、黒沢が好きだったのぉ?! へ

えー、趣味悪いのねえ。ラブレターじゃないんだよ。キャハハ！

直美 ほっといてよお。

千鶴子 分かった分かった。怒らないでよ。そうかぁ、黒沢かぁ。

直美 しつこいなあ、もう。

松村かなめ ちょっと。

ナレーション ...と声をかけたのは、松村かなめ。山本恵子のツッパリグループの副リーダー格でした。

千鶴子 え、あたし？

かなめ そうだよ。あとで話しあったらさ、あたしんどこ来てよ。

千鶴子 う、うん。

かなめ 逃げんなよ。

直美 ねえ、ちょっとヤバいんじゃない？ かなめってさぁ、恵子と仲いいじゃん。

千鶴子 それが何よ。

直美 千鶴子が木村先生のこと作文に書いたの、耳に入ったんじゃないのかな。

千鶴子 そんなの別に関係ないじゃな…。ヤバい、恵子と目が合った。

直美 ほら。

千鶴子 どうしよう。

杉山先生 じゃ、この辺で集めようか。できてない人も出してよ。じゃ、終わりね。号令！

直美 起立。礼！

(効果音) (終業のチャイム。ガヤ)

千鶴子 何、話って？

かなめ 恵子が待ってんだよ。

千鶴子(モノローグ) やっぱり…。

かなめ 来な！

千鶴子 どうして話すだけでトイレまで連れてくるのよ。

かなめ ^{なま}生言ってるじゃねえよ。あんた、恵子のこと知らないわけじゃないよねえ。

千鶴子 木村先生のこと？

山本恵子 へえ、まんざらバカでもないんだ。

千鶴子 どういうことよ？

恵子 別に。もう一つ。わたしのお仕事、なんだか知ってる？

千鶴子 先生のこと追いかけるほかに、何があるって言うのよ。

恵子 守るのよ、先生を。そのために、あんたみたいなのがいたら、困るんだよねえ。

かなめ 恵子は、裏もやってるんだよねえ、実は。あんまり仕事を増やしてほしくないんだなぁ。分かってるのぉ？

千鶴子 ど、どういうことだか分かんないけど、どうしてそういう意地悪そうな言い方するのよ。あんたが先生のファンクラブ作るの勝手だけさ、先生はみんなの

先生でしょ？ だからあたしたちが好きになって、ど、どこがいけないのよ？

かなめ あハ！ 見てよ、恵子。この子震えてるよ。おっかしいの。マイっちゃうよ。

恵子 千鶴子さんとやらよ。あんたには、木村先生って男は似合わないよ。

千鶴子 そ、そうやって脅しても、ダ、ダメよ。あんたたちに(効果音)やられて、ファンをやめた子っていると思うけど、あ、あたしは違うんだからね。あ、甘く見ないでよね！

恵子 おとなしくしてりゃ何もしないつってんのに、バカだね、あんた。かなめ、やんな！

かなめ おらよ！

千鶴子 ギャー！

恵子 痛かねえよ、ンなもん。お前の髪の毛、柔らかいのが自慢なんだろ？ よく伸びるよ。ほら、もう一丁！

千鶴子 イタ、痛～い！

恵子 かなめ、髪だけじゃ面白くねえよ。アレやんな。まず手だな。それと、モモなんかいいじゃん。しっかり焼け跡つけてやんな。

かなめ よっしゃ！

千鶴子 ちょっと、何すんのよ。や、やめてよ。ギャー！ や、やめてよ。あんたたち、人間じゃないわよ！

かなめ うるさいんだよ、このタコ！ ほら、今度はここだよ。恵子、しっかり押さえててよ。

千鶴子 や、やめてよー！ 恵子、あんた、平気なの？ 人にこんなことさせて、先生は知ってるの？ こんなことして楽しいの？ こんなことして、先生は振り向いてくれた？ 先生は…。

恵子 (さえぎって)うるせえんだよ！ 黙ってるよ！ あんたには関係ないことだろ？

千鶴子 こんなこと、必死にやってバカみたい。まるでガキね。自分たちはツッパってるつもりだろうけど、はたから見たら子供よ！ ただのバカよ。ちょっと、放してよ。やめて！ やめて！ や… やめ… ギャー～～！

木村先生 なんだ、今の声は？ (職員室からトイレに急いで走る。)おい、どうした？ 何かあったのか？

恵子(モノローグ) あ、そうだ。職員室に一番近いトイレだったんだ。

恵子 なんでもないです。かなめがカレの写真をトイレの中に落としちゃっただけです。大げさなんですよ、全く。ほら、謝りなさいな。(小声で)かなめ、なんとか言うんだ。

かなめ あ、はい。ごめんなさい。

(効果音) (千鶴子、トイレのドアを開けて外に出る。)

かなめ 恵子、ヤバい！

木村先生 内田、どうした?!

千鶴子 せ、先生...

木村先生 なんだ、その格好は？ ン、足をどうした？ あ、その手のアザはどうした？

恵子 かなめが叫んだら、ついビックリして、ドアに挟んだのよねえ？ 千鶴子、大丈夫？

かなめ 本当に、あたしったら迷惑かけてばかりね。ごめんなさい、千鶴子。

木村先生 そうか。まあいい。さ、内田、早く保健室に行こう。

千鶴子 先生、これ、タバコの跡です。

木村先生 ン？

千鶴子 ヤキって行って、タバコを... 痛！

恵子 なんのお話？

木村先生 いい加減にしろ！ お前らのやったこと、先生が気がつかないとも思ってるのか！ お前たちにはあとでたっぷり話をする。今はとにかく保健室だ。

千鶴子 ダ、ダメー！ あたし、絶対赦さない。あたしを甘く見るんじゃないよ！ こ、こんなにされて、いい子ちゃんに... してられるわけないんだよ！ かなめ、そのライター貸せ！ 同じようにしてやる！

木村先生 なんてこと言うんだ、内田。

千鶴子 先生。恵子は、先生のファンを減らすため、こういうことやるんだよ。

恵子 言うなよ！ 違うからね。

かなめ 恵子がそんなことするわけないだろ。このデマ！ そんなこと流すんじゃないよ！ そうなったのは自分がいけねえんだろ！ 先生のこと... あっ。

木村先生 そうなのか、山本？

恵子 だって！ 憎らしいんだよ。あたしの先生、取られるの。

千鶴子 あんたのだけじゃないよ。先生はみんなの先生だよ。それなのに、あんたの考え方、メチャクチャだよ。赦せない！

恵子 ほんなら力づくで取ってみなよ。

木村先生 バカ！ (パシッと平手打ち)お前たちのやってることは、まるでヤクザのスケ争いじゃないか。先生はそんなやり方は大っ嫌いだ。山本、松村、お前たちがそんなことをして先生が喜ぶとも思っているのか？ 自分の気に入ったものを独り占めにして、それに逆らう者を暴力で押さえ込もうなんて、卑劣だぞ。お前たちが本当に先生のこと好きなら、どうやったら先生からも好かれるか、喜んでもらえるか、どうして考えようとしらないんだ？ 頭冷やして出直してこい！

さ、内田、行くぞ。大丈夫か？

ナレーション 傷の手当てを受けながらも、千鶴子の心の中は、思い返すと煮えくり返るようでした。

(音楽) (BGM)

木村先生 内田。悔しいだろ。憎らしいだろ。思いっきり先生にぶつけていいぞ。だが、そのあとは赦してやれ。

千鶴子 そんなのないよぉ。(涙声に)じゃあ、あたしはやられっ放し？ 何も悪いことしないのに？ そんな、そんな乗ってないよぉ！(泣き出す)

木村先生 内田。あいつらもかわいそうなんだ。山本の両親は離婚。松村のうちは父親が早くに死んでしまった。それでツッパリ始めたんだが、今度は友達までだれも相手にしてくれない。あんな形でしか自分の寂しさを紛らすことができないんだ。あいつら、人一倍、あったかいものが欲しいんだよ、本当は。

千鶴子 そうかぁ…。だけど…。

木村先生 内田、先生がクリスチャンなのは知ってるよな？ 聖書の中にこんな言葉があるんだ。「キリストは罪を犯したことがなく、その口には何の偽りもなかった。ののしられてもののしり返さず、苦しめられても脅すことをせず、正しく裁かれる方にお任せになった。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたはいやされた。」(ペテロ 2:22 - 24)ってね。内田、イエス様はな、お前の心の^{ふくしゅう}苦しみも、傷の痛さも全部知ってるぞ。ここでもしお前が復讐したら、あとに残るのはなんだ？ 憎しみだけだろ？ お前が何も抵抗しなかったってことが、あいつらの心に痛みを与えて、立ち直らせる時がきっと来る。だから内田、赦してやれ。

千鶴子 先生…。

ナレーション 千鶴子は、何か大きな力が、自分の憎しみの心をすっぱり覆っていくような感じがしました。「キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたはいやされた。」まだうずくヤケドの跡を押さえながら、千鶴子はそうつぶやいたのです。

< 完 >